

絆

題字
新潟市教育委員会
鈴木廣志教育長

新潟市
青少年育成協議会

第1号

※第2号

●発行●
平成23年12月12日

事務局
新潟市教育委員会
生涯学習課青少年室

ご挨拶



会長
白倉 政 男

子どもたちはあなたを見ている

先日、ある市の青少年健全育成大会で決議された宣言を知る機会がありました。それは、

- ・親子ふれあい活動を促進し、あたたかい家庭を築きます。
- ・青少年団体活動を充実し、青少年の健全育成に努めます。
- ・大人自身がまず生活態度を改め、社会規範の確立をめざします。
- ・地域の連携を強め、子どもたちが安全で安心してくらせる地域づくりを進めます。

という内容でした。

新潟県青少年健全育成県民会議のキャッチコピーは「大人が変われば、子どもも変わる」です。

昔から子どもは親の背中を見て育つと言われています。子どもたちは、私たち大人を良く見えています。あなたは大人としての自分に自信を持っていますか。

私たち大人にできることは、良い手本となり、家庭、学校、地域の中で子どもたちの成長を見守り、支援し、可能性を広げていくことではないでしょうか。子どもたちはあなたを見えています。

子どもたちは、かけがえのない「今」を生きる存在であり、新潟市の未来を担う存在です。次代を担う子どもたちの健全な育成は新潟市民共通の願いです。

しかしながら、子どもたちを巡る昨今いじめ、不登校、少年犯罪の深刻化、携帯電話の有害サイトなど様々な問題が発生しています。

市内では、四十五地区で青少年育成協議会が組織され、それぞれの地域性を活かした活動が行なわれています。

合併以降、「地域の子どものは地域で守ろう」を目標に全市域で共通な活動ができないか協議してまいりました。

昨年から各区分単位で活動を行なえないか協議し、いくつかの区では合同で事業を行なっています。

私たち新潟市青少年育成協議会は子どもたちの健全育成を願い、家庭、学校、地域と連携を計りながら活動していきたいと思っています。

皆様のご協力をお願いいたします。

新潟市青少年健全育成講演会 「中村真衣のアスリート・トーク」

ひたすら自分のために

「逃げるな、失敗を恐れるな」

真衣さんは、四歳から始まった自身の水泳人生を、昔の写真や節目のレースの動画を交えてお話されました。マネージャーの方を聞き手に配し、質問に真衣さんが答える形式が分りやすく、また聞き手の方のダジャレも冴えて楽しい講演となりました。レースの動画には期せずして拍手も湧きました。

真衣さんは小学生時代バタフライの選手でした。六年生の時、新潟県の大회를優勝。その時の記録は十七年間で破られることがなかったそうです。

その後バタフライから背泳ぎに転向すると才能はさらに進化。中学三年で日本選手権に優勝すると、高校二年にはアトランタ五輪に出場して四位に入賞。

そして、四年後のシドニーを目指してどうするか、という問題に直面します。

真衣さんは「シドニーを目指すならここしかない」という大学を決めました。東京の中央大学です。この大学にはアスリート優遇措置がありません。高額の授業料、生活費、勉強と厳しい練習の両立に耐えられるのか。

真衣さんは母一人子一人の母子家庭。お母さんが働いて懸命に娘を育ててきたのです。優遇措置のある大学ならどんなにいいでしょう。しかしお母さんは、娘の希望を受け入れませんでした。

真衣さんは中

央大学水泳部で順調に成長し、三年生の時、シドニー五輪代表選考会を日本新記録で優勝します。ここまでの真衣さんの努力

はさぞかし物凄いものがあつたことでしょう。そしてお母さんの頑張りも真衣さん母娘の姿には深い尊崇の念を禁じえません。二人とも偉いなあ。

シドニーでは、真衣さんは日本最高記録で銀メダル。県民栄誉賞にも輝きました。そして四年後、次のアテネを目指しましたが落選してしまします。

目標を失った真衣さんは、サッカー元日本代表「ゴールキーパー川口選手の「アスリートの真の敗北は戦いをやめることだ」という言葉に一気に覚醒、「自分のために泳ごう」と決意したそうです。

二〇〇七年の世界水泳まで現役を続け、今、子どもたちに「逃げるな」「失敗を恐れるな」と教える銀メダリストに、尊敬と感謝を捧げたいと思います。



中村真衣さんの話にききいる市民の皆さん(会場 万代市民会館)

北 区

地域の子どもは
地域で育てる



濁川地区育成協は、健全育成部、街頭補導部、環境整備部、調査広報部の四部で活動しています。

街頭補導部は、毎月第一第四火曜に新崎駅を中心に街頭補導活動を実施しています。

環境整備部は年一回の「一斉ごみ拾いと年一回の落書き消しペンキ塗り」をしています。

調査広報部は年一回広報紙「みんなの輪」を発行しています。

健全育成部は夏に小学生中心のチャレンジキャンプ、冬に中学生中心のチャレンジスキーを実施しています。特に、チャレンジスキーは子どもたちに好評で、ここ数年定員以上の申し込みがあり、他の育成協に応援を頼むほどです。嬉しいことに、子どもの頃にキャンプやスキーに参加していた人たちが一緒に活動しています。頑もしく、そして、嬉しく感じています。



東 区

子どもたちのために
重要な役割を



大形地区育成協は、自治会・保護司、民生委員、小中PTAなど四十名の役員体制で活動しています。四つの部会の活動状況は次のとおりです。

①健全育成部……自転車安全教室、地域と学校との情報交換会、ふれあいウォークラリー、地域運動会、バドミントン大会で地域交流。

②街頭育成部……年二十回の定期巡回活動、「祭りパトロール」、不審者出没時の「特別パトロール」で安心安全な地域づくり。

③環境整備部……バイパス側道清掃活動、地域安全マップの作成、地域安全点検活動、安全防犯看板の設置で清潔安全な環境づくり。

④調査広報部……年一回、広報紙（育成協だより）を発行、地域内全戸に配布。

「地域活動」「地域の力」が重要といわれる現在、これからも大形育成協は、子ども

たちの好ましい人間関係や社会性を培っていく上で、重要な役割を担いたいと考えています。



中 央 区

三十年間
子どもとともに



関屋地区育成協は三十年間いろいろな事業を行ってきました。

その中の「なかよし運動会」（三世交代流）は、今年十月二日で第三十回となりました。小学校の秋の運動会がなくなつて以来、「なかよし運動会」は関屋地区育成協が主催して行っています。ピンつり競争やパン食い競争は、子どもやお年寄りに人気が高く、三十年間続いています。

夏休みには、六時三十分からラジオ体操を毎日行っています。休みなしてラジオ体操しているところは、関屋地区だけではないでしょうか。

他に、「ながらパトロール」や標語カレンダー製作なども行っています。関屋地区育成協は、これからも子どもたちの健全な発育を願ひ、育成員、家庭、地域、学校と共に行ういろいろな活動に取り組んでいきます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



江 南 区

活動の
活性化を目指して



曾野木地区育成協は、健全育成部、街頭補導部、環境整備部、調査広報部がそれぞれの立場から、子どもたちの健やかな生育を願ひ、活動しています。「昨年度から、活動の活性化を目指して、活動を見直し、新たな取り組みを始めました。

街頭育成部は、昨年度から自転車乗り方教室を開催しています。信号機、横断歩道などの模擬コースを作り、実際に自転車に乗って、安全確認のしかた、道路横断手順、右左折などの実技を中心とした講習会を実施しています。今年度は、親子で参加する姿が多く見られ、親子で楽しく学べる自転車教室になりました。

健全育成大会は、パネルフォーラム「大人と子どものホンネトーク」をメインとして、開催しています。昨年度は、アトラクション等を実施することで、約一〇〇名の参加者がありました。今年度は、十一月十九日（土）午後二時に開催しました。



秋葉区

健全育成は他団体とのコラボ



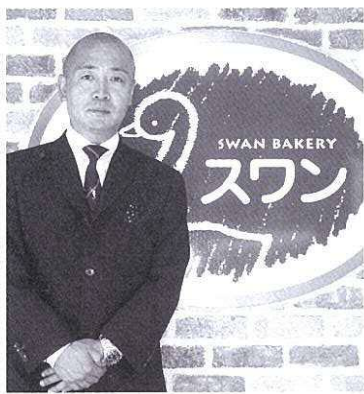
秋葉区育成協では新津地区人権擁護委員会と協力して、青少年健全育成・人権啓発推進大会を開催しています。

大会は青少年健全育成の功績者表彰、中学生私の主張、青少年問題の解決に向けての講演会です。

特に講演会は時代の先端を行く講師をお呼びして、提言や指導をお聞きします。

昨年度は「子ども駆け込み寺」の運営で有名な社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事長、弁護士坪井節子氏から虐待されている子どもの救済について伺いました。

今年度は、十二月十日(土)に株式会社「スワン」社長海津歩氏から、「障がい者の自立支援と地域や青少年」とした内容で、「パン屋の愛と正義と勇気」と題した話をお聞きしました。



平成23年度 講師 海津 歩氏

南区

地域の絆



南区には十一の地区育成協があり、それぞれの地区で特色ある活動を行っています。

今回はその中でも、新飯田地区育成協の活動を紹介いたします。

新飯田地区では毎年七月に新飯田小学校児童を対象とした一泊二日の「ふるさとキャンプ」を行っています。

毎年このキャンプを楽しみにしている児童が多く、自分たちでテントを組み立てたり、飯盒炊爨をして食事を作ったりします。普段の生活では経験できないことに目を輝かせながら、子どもたちは積極的に取り組んでいます。

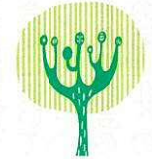
また、このキャンプは、新飯田地区で三十八年続く伝統ある事業です。そのため、小学生の時にこのキャンプに参加した児童が大人になり、



今度は地域の一員としてこのキャンプをサポートしてくれるといった、とてもいい流れのできています。事業でもあります。

西区

坂井輪地区地域と学校のかけはし



西区には、地区育成協が八つあり、今回その中の三地区の活動を紹介いたします。

【坂井輪地区】 小学校五・六年、中学校一・二年生全員を対象に「わたしの主張大会」を実施しています。今年度で二十九回目を迎えました。今では、地域に定着した一大行事になっています。

【小針地区】 昨年度「ミ協共催で安部司先生を招いて食の安全について講演会を、今年度六月、八月に道路安全点検校区内パトロールを実施しました。また、小針中学校の総合学習に参加し、生徒と一緒に清掃活動にも取り組んでいます。

【小新地区】 八月、今年で三回目となるジャズコンサートが小新中で開催され、地域の方々が約七十名集まりました。新潟ジャズクラブの奏でる名曲の数々に昔を懐かしみ、小新中吹奏楽部の伴奏で「故郷」を合唱しました。

音楽を通して地域交流の輪が広がりました。



西蒲区

非行の窓口は…



西蒲区内にある五つの育成協(岩室・西川・中之口・潟東・巻)では、新潟市西蒲区青少年育成協議会を立上げ、初めての試みとして十月十二日午前七時から八時までJR巻駅越後曾根駅前にて高校生を中心に万引き防止を呼びかけながらティッシュを配布しました。配布する前は、生徒の皆さんがティッシュを受け取ってくれるか心配でしたが、ほとんどの生徒皆さんが足をとめて話を聞いてくれて、ティッシュも受け取ってくれました。ティッシュを受け取ってくれた生徒数は、通学時とあつて、巻駅前では約八百人、越後曾根駅前では約二百人でした。今後も、西蒲区では各地区の行事なども含めて連携していきたいと思えます。



非行防止キャンペーン ストップ万引き街頭PR大作戦

万引きの撲滅に向けて

七月十六日午後、新潟駅周辺で新潟市青少年育成団体連絡会議と新潟市が中心となり、総勢二二〇名による「ストップ万引き街頭PR大作戦」が行われました。新潟市青少年育成協議会からは会長をはじめ十五名が参加しました。ポーンスカウト、ガールスカウト、子ども会から五十人を超える子どもたちや警察官、店舗関係者の参加も得て、活気あふれる中、行き交う市民に万引き撲滅を呼びかけました。

ある参加者は、「自分の地区でも万引きはある。こういった活動を新潟駅周辺だけでなく、全市的に展開してほしい。一緒になって万引き撲滅に協力したい」と話してくれました。

警察や店舗関係者の話によると、小・中・高校生の万引きが減らない憂慮すべき状況が続いているとのことでした。



新潟駅前でガールスカウトの子どもたちの活動の様子

非行の窓口と言われる「万引き」をどうやって撲滅させるのが、青少年の健全育成の大きな課題のひとつであると実感させられました。

※新潟市青少年育成団体連絡会議は、新潟市青少年育成協議会、新潟市小中学校PTA連合会、新潟市連合婦人会、新潟市民生委員児童委員協議会連合会、新潟市子ども連絡協議会、日本ボーイスカウト新潟地区協議会、ガールスカウト新潟市連絡協議会、新潟市健民少年団、新潟海洋少年団、新潟市青少年育成アドバイザーの会の十団体で構成されています。

わたしの主張

中学生の発表に感動！

新潟市地区大会開催

「わたしの主張」大会は、市内の中学生が身の回りの出来事や社会問題に対する意見を発表することにより、自らの健康的な心身づくりと、市民の青少年健全育成に対する理解を深めることを目指し、本年度は新潟市生涯学習センター「クロスパルにいがた」で八月五日(金)に開催されました。

大会は、応募のあった二九二点(前年比四十%増)から、事前の書類選考を経て、十五名の生徒の皆さんが新潟市地区大会に臨みました。発表では、学校生活や地域社会、東日本大震災(原発事故等)を踏まえた主張や提言が語られました。

審査の結果、最優秀賞には、南区の白南中学校三年生、山際紗穂さんが選

ばれました。山際さんは、地元で継承されている「茨曾根太々神楽舞」の保存に活動してきた実体験を「必ず守りぬく」と題して発表しました。



表彰式後15名の発表者を囲んでの記念撮影

会長事務局研修会

「今こそ、地域力！」

十月七日(金)、市内四十五地区会長・事務局研修会が黒埼市民会館において開催されました。

まず、大形地区青少年育成協議会の佐藤清会長から「育成協の活性化への



グループに分かれての意見交換

研修会でした。

方策」について、事例発表がありました。大形地区では、「ふれあいウォークラリー」や「パドミントン大会」、年間二十回にも及ぶ「街頭指導」、大形中学生会と協働での「清掃作業」など、地域に根ざした特色のある活動を積極的にに行っているとのことでした。

さらに、役員の間が積極的に小中学校の催しに参加し人的ネットワークを広げ、また、他団体との連携をすることで、不足がちな人力の確保やコストの削減に取り組んでいるそうです。

その後、各地区育成協の活動状況や抱えている問題などについて、グループに分かれて意見交換を行い、最後に各グループから話し合いの内容が発表されました。どのグループでも、事業の活性化や活動費の不足、広報紙のあり方、人材育成の方法などが話題にあがっていました。

「これぞ解決策」というところまではいかないまでも、解決へのヒント・道筋は見えたのではないのでしょうか。

少子化や高齢化、若い世代の地域離れにより、ますます育成協の運営は厳しくなるかもしれません。この

ような時代だからこそ育成協が地域の核となつて人と人をつなげる役割を担うことが大切なのだ」と再認識する